

各位

党派を超えて国家的課題を追求する

公益財団法人協和協会

時代を刷新する会

両団体会長代行 岸 信夫

両団体理事長 半田 晴久

科学技術部会長 中島 稔

両団体専務理事 清原 淳平

文科省より「科学技術白書」の解説

—科学技術部会・新エネルギー委員会(第303回)—

日時 平成28年9月8日(木)午後1時半～4時

場所 衆議院第一議員会館 地下1階 第3会議室

千代田区永田町2-2-1

◆国会議事堂前駅(丸の内線・千代田線)①番出口より2分、永田町駅(有楽町線・半蔵門線)①番出口より下車5分。当日、午後1時より、議員会館玄関にて、通行証を差し上げます。その時刻前に到着された方は、恐縮ですが、受付脇のロビーにてお待ち下さい。会議開始後にお越しの方は、受付に「第3会議室に行きたい」旨お伝え下されば、お迎えに参ります。

議題 1、最近の科学技術・新エネルギーについて思う

挨拶 中島稔科学技術部会長

2、「科学技術白書」の解説

解説 村上尚久文部科学省科学技術・学術政策局企画評価課長
(「科学技術白書」企画担当課長)

3、『新エネルギー関連ニュース No. 158』

解説 中島稔新エネルギー委員長

報告 去る7月5日開催の第302回新エネルギー委員会は、中島稔新エネルギー委員長が議長を務め行われました。

まず、中島稔委員長より『新エネルギー関連ニュースNo.157』の解説がありました。今回は、○新バイオ燃料電池車を開発。エタノールを使用して水素をつくる方式のため、水素ステーションなどが不要に。2020年の商品化をめざす。○細菌と光触媒の組み合わせで効率よく水素をつくり出す原理実験に成功。水素の生成効率が数

十倍に。○洋上風力発電のコストが2025年には、火力発電並みになる、と欧州の電力大手11社が発表した。○福島県・磐梯山周辺で地熱発電の事業性を探るための掘削調査を開始。○原油価格が50ドル/バレル程度まで上昇していることで米シェール業者、拡大路線へ。などの解説があり、一同大いに勉強になりました。

次に、中島委員長にご用意いただいたビデオ4本を上映した。①『発電菌研究最前線』：有機物を食べる細菌の中には、酸素を取る代わりに、電子を出す種類の菌があり、これを利用すれば発電ができる。現実的な用途としては、水処理場での汚泥処理が有望だ。現在は、汚泥処理のために水の中に空気を送り込む曝気が行われているが、実は、曝気のために莫大な電力を消費している。発電菌ならば曝気が必要なくなる上に、若干の電力が得られる。②『小水力発電コンテスト』：水力の利用場所を決め、発電機をつくり、その電力の利用法を提案するという課題の下、高専の学生からアイデアを募った。地産地消の優れた案が多数寄せられた。③『どうする石炭火力発電』：石炭火力発電の比率が世界的に高い。コストが安いからだ。しかし、大量のCO₂が出るのが問題。日本が主導する超々臨界圧の石炭火力発電ならCO₂の排出が少なく、これを発展途上国で活用していけば、排出削減が実現できるのではないか。④『福島原発の廃炉』：2021年から溶けた燃料の取り出しを開始し、2051年に廃炉にする計画。しかし、現実には様々な問題がでて、作業は難航している。

次に、『データでわかる 世界と日本のエネルギー大転換』（レスター・R・ブラウン著）の図表を映写しながら、中島委員長から解説がありました。再生可能エネルギーの比率は、現在、ニュージーランドが80%、スウェーデンとオーストリアが60%、デンマークが43%であるのに、日本はわずか12%で、現在の計画では、2030年に20%をめざしているに留まっている。これでは世界から日本は取り残されてしまう。日本はもっと再生可能エネルギーに力を注ぐべきだ。などの解説があり、一同大いに勉強になりました。

★レクチュアにつき、当日会費千円にご協力お願い申し上げます。

次回、9月8日（木）の新エネルギー委員会に

出・欠（いずれかに○印）

御芳名 _____

貴方様のFAX _____

テロ対策への警備からの要請上、会員に限ります。

参加希望者は、予め履歴書をご提出下さい。

事務局宛FAX 03-3507-8587

協和協会事務局 ☎03-3581-1192 時代を刷新する会事務局 ☎03-3272-4320

両団体専務理事兼事務局長 清原淳平

HP <http://www.jidaisassin.jp> Eメール kiyohara@jidaisassin.jp